

樽桜陽、樽潮陵、余市紅志高 36人息合わせ

迫真の演技 観客魅了



小樽桜陽高、小樽潮陵高、余市紅志高の演劇部が3日、合同公演「約束の地」を小樽市民センター・マリナーホール(色内2)で披露した。3校の生徒計36人が作り上げた舞台に、会場から大きな拍手が送られた。

(麻林由)

演劇部が合同公演

脚本は、桜陽高演劇部顧問の菊地美千教諭の書き下ろし。放射能汚染が広がった未来の地球が舞台のSF劇で、地下での生活を余儀なくされた人々が、自然豊かなくなつての地球の記憶を追い求める物語だ。

地下の施設を修復するため、危険をかえりみずに地上にたどり着いた主人公の少年マモ

SF劇「約束の地」を熟演する生徒たち。衣装や舞台装置も手作りした

収益金の一部は、東日本大震災の被災地へ寄付する予定。

脚本は、赤い雪が降り注ぐクライマックスシーンでは、迫真の演技に涙を流す観客もいた。公演は2回行われ、屋の部には約230人が来場した。

孫の晴れ舞台を楽しみに石狩市から訪れた田村寿美子さん(69)は「難しい設定だったがとても面白かった。高校生とは思えない演技も素晴らしい」と感動していた。